

嵐山雨景（篠崎小竹）

急雨沛然花散風 遊人去盡水西東  
煙雲變幻山奇絶 附與橋頭一釣翁

急雨 沛然として 花 風に 散ず

解説 嵐山の魅力を詠った詩。

遊人 去り 尽くす 水の 西東

語釈 ※嵐山||京都の桜と紅葉の名所。※急雨||にわか雨。※沛然||  
雨が勢い良く降るさま。※遊人||花見客。※変幻||変化の素早いこと。  
※奇絶||非常に珍しい・こと・さま。絶妙。※付与||付け加えて。  
※橋頭||橋のたもと。

煙雲 変幻して 山 奇絶

通釈 にわか雨が勢い良く降ってきて、花は風のために散ってしまい、

附与す 橋頭の 一 釣翁

花見客たちも川の東西に逃げ去ってしまった。煙のように立ちこめる  
雨雲は変化が素早く、山の景色は誠に素晴らしい。付け加えて、橋の  
たもとで釣り糸を垂れている一人の老人の姿が一層の風情を添えてい  
る